

令和元年度 学校評価(第1回)の結果を踏まえた2学期の取組について

重点教育目標	重点事項	評価結果から	改善方策案	2学期の取組
自ら考え、表現する力を身に付ける	1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善		<ul style="list-style-type: none"> ○ 重点教育目標「主体的・対話的で深い学び」について <ul style="list-style-type: none"> ・研修部は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて研修内容を踏まえてできるところからやっつけていこうということを継続して声をかけていく。 ・お互いの授業を見合う。自己解決にならないように見合う機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的・対話的で深い学び □校内研修や環流報告を通じて深めていく。(研修)
	2 言語能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> □教職員は、「主体的・対話的で深い学び」について課題意識をもっている。 □保護者は、「学習規律が身に付いている」について課題意識をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習規律について <ul style="list-style-type: none"> ・どの学年においても丁寧な言葉遣いができるように教職員全体で指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習規律 □教室掲示物を活用しながら発表の場合に丁寧な言葉遣いができるように指導していく。(教務)
	3 主体的に学ぶ態度、学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> □読書習慣に係る肯定的な回答の割合が低い(保護者評価、教職員評価)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読書習慣について <ul style="list-style-type: none"> ・自分の選んだ本を読むだけでなく、読み聞かせや集団読書など実施するとよい。(絵本や物語など学年の実態に応じて) ・読み聞かせの継続と時間の確保(教職員付けを素早くなど)。 ・学校便りの中で読書の必要性を伝え、家庭と連携する(アウトメディアにもからめて)。 ・図書委員会等が休み時間に本の読み聞かせをしたり、本の紹介をしたりする。本に親しめるような取り組み。読書交流会。 ・日常の読書の時間(13:15~25)をしっかりと取ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読書習慣 □図書委員会による本の紹介する。(活動として取り組む)(図書) □学校だよりを通して保護者への連携を呼びかける。(図書) □家庭学習の中に読書を取り入れる。(図書)
	4 学習規律の徹底	<ul style="list-style-type: none"> □教職員は、家庭学習における習慣について課題意識をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習に係る学校の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習のお知らせをするなど啓発を継続。 ・学級通信等で、家庭学習の取り組み例などを伝えていくことはとてもよかった。 ・研修部が取り組んでいるものの一部をとりまとめ、壁に掲示して内容を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習 □参観日通信などで家庭学習の啓発する。 □家庭学習の意欲付けになるような活動の例示 □家庭学習の内容を参観日で保護者にお知らせする。
	5 家庭学習習慣			<ul style="list-style-type: none"> ○その他 □ユニバーサルデザイン(学級でできる)の情報提供をしていく。(支援部)
ち、自他とや違いを認め、思いやりの心をも	6 基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> □教職員は、基本的な生活習慣に関する指導に課題意識をもっている。 □保護者アンケートにおける、挨拶に関する肯定的な回答は、67%に留まっている。(昨年度も67%) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣に関する指導について <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの日常の様子を知らせ、家庭と連携を図る。 ・基本的な生活習慣の必要性について学校だよりや保健だよりなどで保護者に伝えていく。 ・早寝・早起を日常的に働きかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつ □教職員見ら大きな声であいさつし、子どもの手本になるようにする。 □児童会のあいさつ運動は、継続して行う。
	7 あいさつ習慣		<ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつについて <ul style="list-style-type: none"> ・教職員自らが大きな声で子どもたちにあいさつをする。継続する。 ・なぜ、あいさつをしないのか できないのかについての理由を探っていく必要があるのではないかと思う。 ・「誰にでも」「自分から」のあいさつを意識させる。 ・児童会であいさつ運動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○その他 □職会後の実態交流の中で校外のこと(自転車、公園などのトラブル)も出してもらい共通理解を図る。
くる健康でたくましい心と体をつ	8 命を大切に		<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力づくりについて <ul style="list-style-type: none"> ・結果を分析し、取り組みを周知していく。 ・玄関ホールの体力づくりコーナーを積極的に活用する。 ・体力づくりというまとまった運動をしななければならないと思いがちだが、「体を動かす」ことを意識していけばよいのではないか。 ・少年団に入っている子どもと入っていない子どもに差がある。 ・外遊びを家庭にも働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体力づくり □玄関ホールの体力づくりコーナーを充実を図る。(保体) ※ロボットは、傾いているので整理する。 □体育の準備運動の際に体幹トレーニングを紹介していく。(保体)
	9 食育の充実	<ul style="list-style-type: none"> □保護者アンケートにおける、体力づくりに関する肯定的な回答の割合は、他に比べ低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○その他 食育：指導の充実を図る。マナーの指導は、定期的に行っていく。 命を守る：地震、自転車、不審者等、機会あるごとに指導していく。 	
	10 健やかな心身の保持と増進			
教育活動全般	11 働き方改革		<ul style="list-style-type: none"> ○ 働き方改革 子どもと向き合う時間の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・丸付けや学年便りなどを分担していただき軽減されている。継続していただけるとありがたい。 ・宿題の丸付けを今の体制でやっつけていけたらよい。 ・外国語、プログラミングなど町費(ふるさと納税等)で人材を確保してほしい。 ・引き続き月1回の定時退勤日を設定してほしい(可能な時期なら月2回)。 ・本来は帰れるはずなのに帰りづらい雰囲気を感じる。仕事が終わったら帰宅するよう全員で呼びかける。 ・朝打ちなしや会議等の時間を短くすることで教材研究にあてられてよかった。 ・月曜日の打ち合わせの復活はなくてよい。日報でよくわかるし、わからない先生は、近くの先生に聞けばよいと思う。どうしても必要な場合は、朝の打ち合わせをしてほしい。 ・日報だけではうまく伝わらないことがあるので週に一回連絡する時間があるといいと思う。 朝が難しいので月曜日の児童会の後、3:20~25で行えるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○働き方改革 □定時退勤日1回~2回実施(教務)(事務) □定時退勤日はできれば金曜日に実施する。(事務)
	12 チームによる支援	<ul style="list-style-type: none"> □教職員は、働き方の改善について課題意識をもっている。 		<ul style="list-style-type: none"> □朝打ちは、必要などきのみ実施する。 ※朝打ちを週1回実施した方がよい(教務)
	13 教育活動全般			